

JICA ルサカ郡総合病院運営管理能力強化プロジェクト



チレンジェー一次レベル病院の敷地内にあるルサカ郡保健局のワークショップにて5S活動を実施中の安食和博短期専門家(医療機器管理)

ルサカ市の5つの一次レベル病院で医療機器チャンピオンの研修を実施

病院マネジメントハンドブックの最終草稿が完成

チレンジェ病院敷地内のルサカ郡保健局ワークショップにて5S活動を実施

マテロ病院とチレンジェ病院で感染予防管理研修を実施(約400名が参加)

ルサカ市の5つの一次レベル病院で医療機器チャンピオンの研修を実施

チャワマ、チレンジェ、チパタ、カニヤマ、マテロの5つの一次レベル病院において、「医療機器チャンピオン(MEC)」を対象とした初めての研修が実施されました。

MEチャンピオンの取り組みは、病院内で医療機器管理のリンクパーソンを明確にし、病院の各部門で、機器の利用者による予防的メンテナンスが行われるようにする仕組みです。これにより、医療機器の故障を未然に防ぐこと、また、機器の故障・損傷が起こったときには、その報告を円滑にし、医療機器技術者(MET)と生体医工学技師が故障原因を特定し、予防措置を講じやすくすることが期待されています。

2025年4月30日にルサカ州保健局(LPHO)で開催された第2回州四半期医療機器管理会議では、JICAカシオペアプロジェクトの短期専門家であ

る安食和博氏が「医療機器チャンピオンマニュアル(草案)」を紹介しました。

この会議には、ルサカ州保健局の医療機器部門責任者のクリス・シンカラ氏、ルサカ郡保健局(DHO)の医療機器技術者(MET)であるフライデー・マタフワリ氏とオベド・サムシコ氏、ならびに5つの一次レベル病院の医療機器技術者と生体医工学技師が参加しました。

各施設におけるMEチャンピオンの育成方法が議論されました。すぐにできる活動として、例えば、ほこりの除去やフィルター清掃、機器ごとの適切な消毒薬の使用方法など、日常的な機器管理の実践的な留意点が共有されました。MEチャンピオンには、医療機器技術者(MET)と協力して、機器保守の第一線を担うことが期待されています。



ルサカ州保健局で開催された第2回州四半期医療機器管理会議にて、5Sに関する発表を行うオベド・シムスコ氏(ルサカ郡保健局医療機器技術者)(2025年4月30日)

病院マネジメントハンドブックの最終草稿が完成

ルサカ州内の関係者が集まり、公立病院における戦略的プランニングと活動の導入とモニタリング手法を体系的にまとめた「病院マネジメントハンドブック」の最終草稿が完成しました。

2025年4月14日から17日にかけて、ルサカ州保健局、ルサカ郡保健局、5つの一次レベル病院から選出された執筆メンバーが市内の会場に集まり、病院マネジメントハンドブックの第5回目となる草稿会議を開催しました。

このハンドブックは、本プロジェクトで運用された病院マネジメントの実践、特に戦略的プランニング、活動の導入とモニタリングの実践を文書化し、プロジェクトが対象とする5つの一次レベル病院以外の病院にも普及するための実用的なツールとして、ルサカ州保健局が主体となって開発しています。

会議では5つの作業班に分かれ、各章の修正・加筆を行った後、合同レビューで本書の内容と構成の最終確認がなされました。

活発な議論がなされ、ハンドブックの活用を効果的に進めるためには、州および郡レベルの支援体制をより明確にする必要があることが指摘されました。また、病院内部の役割は比較的明確に整理されている一方で、外部からの支援のあり方については今後の検討課題とされました。さらに、ハンドブックに記載された実践の導入状況をどのように評価するかも課題となりました。

今後、編集委員会が組織され、内容の最終調整、英語の校正と出版準備が進められます。完成稿は2025年5月末までに仕上がる予定です。



ルサカ州チランガにある会議場で開催された第5回病院マネジメントハンドブック草稿会議の参加者(2025年4月14日-17日)

チレンジェ病院敷地内のルサカ郡保健局ワークショップにて5S活動を実施

2025年4月17日、チレンジェ病院敷地内にあるルサカ郡保健局(LDHO)医療機器ワークショップにて5S活動が実施されました。

このワークショップは、これまで5つの一次レベル病院から回収された故障機器の保管庫として使用されていました。今後はルサカ郡保健局により、郡レベルの医療機器管理の拠点として利用することを意図して、5S活動が行われました。

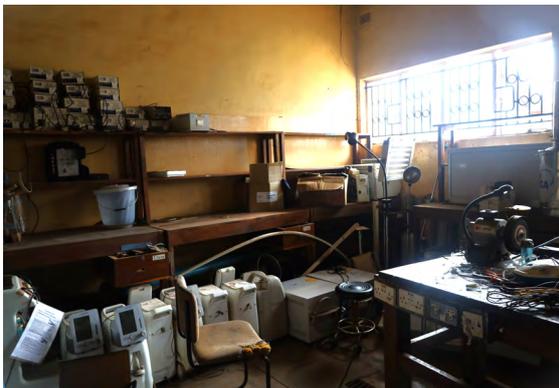
本活動には、ルサカ州保健局の医療機器部門責任者であるクリス・シンカラ氏、ルサカ郡保健局の医療機器技術者(MET)であるフライデー・マタフワリ氏とオベド・サムシコ氏、5つの一次レベル病院の医療機器技術者(MET)と生体医工学技師、JICAの短期専門家として医療機器管理の技術協力に訪れている安食

和博氏、プロジェクトオフィサーのジョセフ・チゾンゴ氏が参加しました。

参加者は、「整理」のステップで修理可能な機器と廃棄対象の機器を分類し、「整頓」として機器の搬出、「清掃」として、ワークショップ内の清掃を実施しました。その後、「故障機器」、「稼働する機器」、「評価待ち機器」の3区画にゾーニングしました。

政府の所有物である機器や物品の廃棄には事前の手続きが必要です。そのことが「整理」、「整頓」のステップを難しくすることがありますが、本活動では手続きも滞りなく、不要機器・物品の廃棄がスムーズに行われました。

本活動を通じて、郡保健局が5病院からの故障機器を一括で受け入れ、効果的に対応できる機能的な作業スペースが確保されると期待されています。



上:5S活動前のワークショップの一角
下:5S活動後のワークショップの同じ一角



上:活動手順を確認する医療機器技術者達
下:ワークショップの「清掃」活動の様子



マテロ病院とチレンジェ病院で 感染予防管理研修を実施(約400名が参加)

マテロ病院とチレンジェ病院では、感染予防管理 (IPC)、手術部位感染 (SSI)、抗菌薬耐性 (AMR) をテーマとした4日間の研修が実施されました。両病院ともに約200名の職員が参加し、医師、清掃スタッフ、医療機器技術者、一般作業員、薬剤師、看護師、事務職員など、幅広い職種が参加しました。

マテロ病院のIPC研修は、エゼキエル・カンコロト氏 (環境保健技術者兼IPC担当)、ブリジット・シティマ氏 (IPC看護師)、ムウェンバ・マシリ氏 (IPC医師) が担当し、チレンジェ病院では、クライド・ウシバントゥ氏 (環境保健技術者兼IPC担当)、ケニー・チレシエ氏 (IPC看護師)、サビィアー・カヌングウェ氏 (IPC医師) がIPC研修を主導しました。

この研修の発端は、チャワマ病院で開催されたIPC委員会、支援スタッフを含む病院職員の理解や認識が、感染予防管理 (IPC)、手術部位感染 (SSI)、抗菌薬耐性 (AMR) について不足しており、そのことが、IPCの標準手順の遵守率を低くしているとの指摘を受けて始まりました。

同じ課題は、マテロ病院でも認識されており、同様の課題を認識していたマテロ病院とチレンジェ病院は、チャワマ病院のIPCトレーニングを視察後、全職員を対象にした包括的な感染予防管理 (IPC) 研修の実施を決定しました。

研修では、事前・事後テストを通じて知識の習得状況を確認するとともに、廃棄物の適切な分別方法や院内清掃についても重点的に取り上げられました。

さらに、手術部位感染 (SSI) および抗菌薬耐性 (AMR) をどう防ぐかについて、個人レベルと組織レベルの双方の視点から発生要因や予防策についての意見交換が行われました。

本研修によって、スタッフの知識、意識、IPC実践の向上を改善し、そのような日々のサービス提供により患者の健康アウトカムを改善させることが期待されています。



マテロ病院の院長であるビクター・リューマ氏によるIPC研修の開会挨拶の様子



IPC研修の事前テストで参加者を支援するクライド・ウシバントゥ氏 (環境保健技術者兼IPC担当)

PHOTO FOCUS



第1回州四半期クリニカル会議で病院の戦略目標とアクションポイントを議論する参加者



質問する参加者。チレンジェ病院のIPC研修の様子。



参加者に手指衛生を実演するニャンガ専門家。チレンジェ病院のIPC研修にて。



集合写真。マテロ病院でのIPC研修4日目。



発言するダリツォ・サカラ氏(ルサカ州保健局プランナー)。病院マネジメントハンドブック草稿会議にて。



チェルストーン病院でのIPCラウンドに同行するニャンガ専門家。



ゾーニングが導入されたルサカ郡保健局のワークショップ

編集・デザイン: コンベ カパタモヨ

編集: 緒方 敬

編集長: 村井 真介

連絡先

村井 真介 ルサカ郡病院運営管理能力強化プロジェクト チーフアドバイザー

住所: Plot No.11743A, Brenwood Lane, Longacres. P.o. Box 30027, Lusaka, 10101, ZAMBIA

Cell: +260 765 192 865 (official)